

赤十字 きょうと VOL 07

2015

きょうとの赤十字の活動をご紹介！
災害救護・国際活動・青少年赤十字・
青年赤十字奉仕団・血液事業…
最新情報をお届けします！



人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.



日本赤十字社 京都府支部
Japanese Red Cross Society



平成26年8月京都府豪雨災害では福知山市内の多くの住宅が床上・床下浸水の被害を受けました

私たちにできること…を考えたい

村岡 和恵 さん（赤十字レスキューチェーン京都 福知山支会長）

平成26年8月17日に発生した京都府豪雨災害では福知山市内の多くの建物が浸水し、がれきの撤去などに大勢の方の手助けが必要な状況となり、全国からボランティアが駆けつけていただきました。

私たちは、8月18日に福知山市災害ボランティアセンターが設置した現地ボランティアセンターで、お越し頂いた多くのボランティアの方々に、水分や塩分補給による熱中症の予防、手洗いやうがいで感染予防の注意喚起や指導、資材の洗浄など主に衛生管理面の支援活動を行いました。

活動中、ボランティアの方に「赤十字はこういう活動もしているのですね。嬉しかったです。」と声をかけて頂くこともあり、あらためて「赤十字防災ボランティアとして被災地で私たちにできること…」を考えるきっかけになりました。今後も「赤十字ボランティアとして私たちにできること」を考えながら活動していきたいと思います。



救急法の指導員としても活躍中



左から、緊急セット、毛布

コラム① 日本赤十字社の救援物資とは？

日本赤十字社では、災害用の救援物資の備蓄をおこなっています。また、日頃から京都府内の日赤地区分区（最寄りの市町村などの役所にある日赤の窓口）に毛布・緊急セットの分置を依頼しています。

災害時には、出来る限りの救援物資を地区分区を通じて被災された方々にお届けします。

コラム② 「もしも」の事故に備える講習会

日本赤十字社では、「救急法」「水上安全法」「幼児安全法」などの講習を開催しています。京都府支部ではホームページに各種講習会の日程を掲載していますので、身近な人を救うための手当ての方法や日常生活での事故防止など、健康安全に関する知識・技術の習得を希望される方はホームページをご覧になるか、京都府支部事務局（TEL：075-541-9326）までお問い合わせください。



救急法講習会で担架の使用方法を解説



真剣な面持ちでミーティングに臨む

赤十字病院はいつでも出動できます

藤本 亮太 主事（京都第二赤十字病院）

私たち赤十字病院のスタッフは、災害などが発生した場合にいつでも出動できる体制をとり、さまざまな訓練を行っています。

赤十字病院の大きな特徴は、災害などに備えて医師1名、看護師長1名、看護師2名、事務調整員2名で構成される「常備救護班」を編成していることです。

東日本大震災でも、東北3県を中心に全国92の赤十字病院から延べ約900班の救護班が活動しました。

避難所に赤十字の救護班が巡回に行くと日赤さんが来てくれたと赤い救護服に親しみを持っていただきました。

特殊災害に対応するために

高本 将平 主事（舞鶴赤十字病院）

第一次被ばく医療機関に指定されている舞鶴赤十字病院では、原子力災害に対応するため、京都府が開催する訓練に参加しています。平成26年11月24日には京都府の除染訓練に参加し、行政や自衛隊との連携を図りながら、活動を行いました。通常の病院診療だけでなく、災害時も赤十字病院としての特徴を生かし、みなさまの健康と安全を守れるよう頑張ります。



特殊災害へ備えるため訓練に参加

福島～いまだ苦しみは続いています

河野 智子 看護師長（京都第一赤十字病院） ●平成27年7月6日から8月7日まで派遣

福島県いわき市の「日赤なみえ保健室」で、浪江町からいわき市内に避難された方々に、健康支援を行っていました。

自宅訪問や電話調査などでお話をうかがい、語りを大切にしています。「こころのケア」をさせていただいているのか、してもらっているのかわからないくらいですが、被災者の方々は4年経ってもまだまだ苦しみは続いていることを忘れないでほしいです。



こころのケアは笑顔が大事です



ケニアの赤ちゃんを救うため

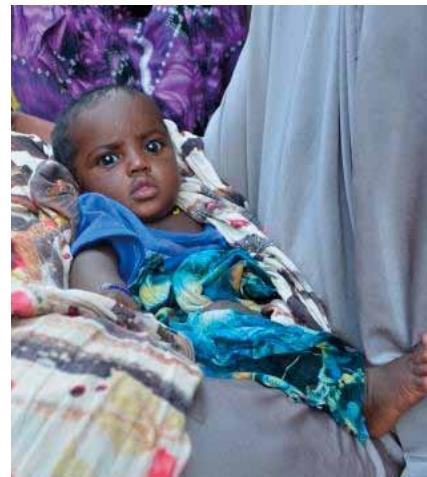
佐野 友妃子 主事（京都第一赤十字病院）

●平成25年11月から平成27年1月まで派遣

私は京都第一赤十字病院（以後、第一日赤）の一員でもあり、海外派遣員でもあります。海外派遣では事業が円滑にすすむように、現地のスタッフや住民と協議を行い、実施にかかる調整や進捗状況の管理を行います。

初めての海外派遣は、2010年にハイチを襲ったマグニチュード7.0 死者約23万人の大災害。第一日赤の仲間が「こっちは私たちに任せて、むこうで私たちの分も頑張って！」と声をかけてくれたことが、すごくエネルギーになりました。

そして今度は、一年間ケニアに行くことに。世界でも最悪のレベルにあるといわれる、ガルバチューラ県の乳幼児の死亡率（出生1,000人あたり75人、日本では1,000人あたり4人）などの改善のため、ケニア赤十字社をサポートすることが目的です。



出産時の大量出血でお母さんが亡くなった女の子



（中央）ハリマさん（右から2番目）カラくん

タナ村に住むカラ君は、ハリマさんの6人目の子ども。30km離れた病院に行く道の途中で産気づき、その場で生まれました。

どうにか出産したものの、そのままカラ君を連れて、歩いて病院に向かったというから驚きです。この地域では、病院までの距離が遠いため、自宅で出産する女性が、命を落とすケースが少なくありません。

私たちは、巡回診療を行うとともに、安全な出産についての啓発を行いました。少しずつではありますが、病院での出産も増え始めています。

日本の皆さんに伝えたい思い

私たちの取り組みの主役は現地の人達です。村人のなかから選ばれたボランティアが公衆衛生や保健の研修を受け、村人に伝えています。

ビリキ村の人々は、「保健の知識を持たなかった私たちがそれらを学び、命を失う子どもが減りました。日本のみなさんのご支援が、村人を守ってくれている」と感謝の言葉を話してくれました。



笑顔の素敵なビリキ村の人々



負傷者の治療にあたる的場医師

ネパール～地震災害、命を救うために

的場 裕恵 医師（京都第一赤十字病院）

●平成27年6月2日から7月15日まで派遣

ネパールの首都カトマンズから北西80km付近を震源とするマグニチュード7.8の地震が4月25日に発生し、死者はネパールでは7,600人を超え、周辺国のインドや中国でも死者がいました。

日本赤十字社は直ちに保健医療チームを現地へ派遣し、7月31日までに1万5,599人の患者を診療し、こころのケアは3,536人、巡回診療では1,183人を診療しました。

私は、保健医療チーム第2班の医師として、メラムチ村での医療活動とともに、山間部での巡回診療を行い、けが人や急病人の手当てにあたりました。



ケニア赤十字社のスタッフと一緒に

ケニア～安全な出産が増えてきました！

近藤 松子 看護師（京都第一赤十字病院）

●平成27年1月から9月26日まで派遣

私は、ケニア赤十字社で、現地の人びとが自分の力で事業を進められるよう支援をしています。

また、日本赤十字社からの資金が効率的に使用されているかの確認も行っています。この地では、私たちには当たり前のことですが、住民にとっては貴重な情報となります。最近では病院での安全な出産が増えてきています。これからも現地の人達の力になれるよう、任務を全うしたいと思っています。



マリアンさん（右）のお友達と一緒に

この体験を多くの人に伝えたい

小谷 奈緒 さん（華頂女子高等学校 3年）

●平成26年8月20日から26日まで派遣

私にとって、青少年赤十字（以後、JRC）の国際交流（マレーシア・シンガポール）に参加した高校2年生の夏は、忘れられない思い出です。マレーシアでのホームステイ先はマリアンさんという19歳の女性で、毎日、女子トークで盛り上がりました。マリアンさんは今もSNSなどを通じて交流をつづけています。シンガポールでは、公立中学校の訪問。学園祭と重なっていて、私たちも一緒に楽しみました。最後の夜は、サプライズで私の誕生日ケーキをシンガポールのJRCメンバーが用意して、祝ってくれました！

言葉の壁や文化・宗教の違いなど、大変なところもありましたが、それを苦労しつつも乗り越えられて、とても意味のある国際交流になったと思います。言葉は「英語」がほとんどでしたが、ホームステイなどをしているうち、言葉の壁を越えて心と心が通じる貴重な体験をしました。これからは、赤十字の活動や国際理解を深めてもらえるように、この体験をたくさんの人へ伝えていきたいと思います。



小学生の頃から参加している室井さん、全員の前で堂々と発表

リーダーシップ・トレーニングセンターに参加して

室井 大輝さん（京都産業大学附属中学校 3年）

去年のリーダーシップ・トレーニングセンター（以下トレセン）では、自ら「気づき、考え、実行する」すること、人のために行動することの大切さを身に余るほど考えさせられました。この日から私は、いつも「ボランタリー・サービス精神」（以後、VS）を持ち続け、行動してきました。

今年のトレセンに申し込んだ夜、去年のトレセンでの出来事を頭にめぐらせました。そのとき、閃光が走るような鋭い感覚がよぎりました。「VSはどんな人であっても助けたり、手伝ったりする公平の精神が入っている」これが基本ではないのかと。「今年はもっと幅広いVSを行うための知識を得ることが目標だ」と決意しました。

そして、私の突き詰めていた答えが訪れる瞬間が来ました。それは、健康安全プログラムでの救急法でした。実際に胸骨圧迫やAED、毛布の使い方などを学習してみて、この知識を手に入れることでVSの幅も広がり、どんなケガの場合でも差別なく、自ら積極的に人を助けることが出来ると思いました。

これからも、小学生の頃からトレセンで学び、自分の基本的概念として掲げていたVSを学校や家庭だけでなく、公共社会の場でも使えるよう日々の生活に取り組んでいきます。

ありがとうの言葉が僕の原動力です

福居 志郎さん（京都青年赤十字奉仕団 団長）

僕が青年赤十字奉仕団に興味を持ったのは、車いす駅伝競走大会の補助ボランティアに参加したことがきっかけでした。高校3年間のボランティアを通じ、もっとボランティア活動に関わっていきたい、活動を通して社会に貢献したいという気持ちから、青年赤十字奉仕団（RCY）で活動したいと思うようになりました。活動を通じて「ありがとう」と言っていただいたことは僕の活動に対する原動力です。

現在では、東日本大震災で被災された方に対する支援やHIV/AIDSの予防啓発活動など、さまざまな活動を行っており、他府県の団員とも交流を持ち、活動の幅を広げることができました。これからも、多くの方に僕たち青年赤十字奉仕団の活動を知ってもらえるよう頑張りたいと思っています。



車いす駅伝補助ボランティアの研修会にて司会を行う福居さん



メッセージをお送りいただいたペンネーム「銀河の星屑」さん。お子さんとともに。

ありがとう献血メッセージ

「銀河の星屑」さん

娘が小学二年生になる春、「骨髓異形成症候群」という血液の癌にかかり、一年間の闘病生活を余儀なくされました。抗癌剤投与による貧血や、血小板の減少など、様々な危機を救ったのが輸血でした。輸血は生命を維持するためには不可欠でした。当時は、当たり前のように輸血をしてもらい、献血をしている人のお蔭だなどと考える余裕もなく、我が子の回復のことで頭がいっぱいでした。

今ふり返ってみると、医師、看護師はもちろんのこと、献血がなければ助からなかつたと、改めて感謝の念でいっぱいです。

娘は薬科大学に入学し、薬学を学んでいます。将来少しでも世の中の役に立つことを切望し、献血で命を救ってくれた人達に、少しでも恩返しができればと、がんばっております。

京都の赤十字施設の近況



京都第一赤十字病院

TEL: 075-561-1121 FAX: 075-561-6308

京都府の補助によりD M A T カーを整備しました。最新の医療機器や衛星通信機などを搭載。災害に備えています。

また、待望の新管理棟が完成し、あとは立体駐車場の完成で一連の改築が終了します。気分一新、職員も張り切っています。



京都第二赤十字病院

TEL: 075-231-5171 FAX: 075-256-3451

現在、耐震工事を行っています。災害時だけでなく、将来に向かって高度急性期医療を担う病院を目指しています。

また、救急患者監視装置を更新。より良質なチーム医療の提供が可能となりました。これからも安全で質の高い医療を提供して参ります。



舞鶴赤十字病院

TEL: 0773-75-4175 FAX: 0773-76-3724

隣接する市立舞鶴市民病院と連携し、急性期、回復期、療養期、在宅復帰まで完結型医療をモットーに取り組んでいます。

また、京都府緊急放射線検査施設を整備し、被ばく医療体制を支える検査機能を有する医療機関と位置づけられました。



京都府赤十字血液センター

TEL: 075-531-0111 FAX: 075-541-9485

現在、医療に必要な輸血は、皆様からの献血で100%確保できています。しかし、ガンや心臓病などで輸血が必要となる方が年々増加しており、12年後の2027年には、献血が85万人分も不足するという推計がでています。未来の献血を支える子どもたちに献血の大切さを伝えることが不可欠であり、若い世代に語り継いでいくことをお願いします。



健康コーナーでは、赤十字病院の看護師がご来場者の健康相談にあたりました。

赤十字をもっと知つてもらうために ひろげよう赤十字の輪（和）

日本赤十字社京都府支部では、毎年赤十字運動月間である5月に京都駅前地下街のポルタプラザでイベント「ひろげよう赤十字の輪（和）」を管内施設合同で開催しています。今年度は、5月10日（日）に救急法の体験コーナーや健康コーナーでの骨密度測定、献血クイズが行われたほか、赤十字奉仕団の方々により啓発資材を配布していただくなど、盛況な中で終えることができました。

私たちは、これからも平和な世界を目指すため、皆様とともに赤十字思想の普及・啓発に全力を注いでまいります。

京都府赤十字大会

平成27年11月25日に開催

名誉副総裁をお迎えし、京都府赤十字大会が3年ぶりに開催されます。普段から赤十字の活動にご協力頂いている皆様に感謝するとともに、国際救援活動に参加したスタッフの報告が行われます。

これからも、赤十字活動のより一層の前進を目指します。



平成24年に開催した京都府赤十字大会

平成26年度 日本赤十字社京都府支部 歳入歳出決算のお知らせ

収入の部	決算額(千円)	内訳	支出の部	決算額(千円)	内訳
社 資 収 入	304,545	皆様(個人、法人)からの 社費、寄付金	災 害 救 護 事 業 費	99,779	災害救護に要する経費及び救護資機材整備費、 平成26年8月京都府豪雨災害義援金送付金など
委 託 金 収 入	5,648	献血推進事業にかかる 京都府委託金	社 会 活 動 費	53,226	救急法・水上安全法・健康生活支援講習・幼児安全法講習会 の開催経費、赤十字奉仕団や青少年赤十字の育成費など
補助金及び交付金収入	308	災害救護装備にかかる本 社交付金など	国 际 活 動 費	1,048	国際救援支援事業など
災害義援金預り金収入	70,972	平成26年8月京都府豪雨 災害義援金等預り金収入	地 区 分 区 支 付 金	44,659	地区分区への事務費及び事業費の交付金
縹 入 金 収 入	3,354	国際活動資金繰入金及 び管内施設からの負担 金繰入など	社 業 振 興 費	36,560	社資募集及び社員登録や広報活動費
雑 収 入 等	5,934	講習会負担金収入など	基盤整備交付金・補助金支出	36,408	医療施設や血液センターの基盤整備のための交付金
前 年 度 縹 越 金	83,184	前年度縹越金	積 立 金 支 出	42,521	災害等資金積立金、施設整備準備資金積立金など
収 入 合 計	473,945		総 務 管 理 費	53,862	光熱費、事務費など
			資産取得及び資産管理費	2,753	庁舎の維持管理費など
			本 社 送 納 金 支 出	44,032	本社の国内・国外活動費
			支 出 合 計	414,848	
			次 年 度 縹 越 金	59,097	左記金額(収入合計-支出合計)を、次年度に縹越させて頂きました。

このほか、東日本大震災義援金として1,495,614,801円(平成27年6月末までの累計額)を被災地にお送りしています。